

市民の皆さんに納めていただいた税金がどのように使われているのか、市の財政状況がどのような状況にあるのかをお知らせするため、財政事情を公表します。

◎問い合わせ 財政課 財政係 ☎37-0101

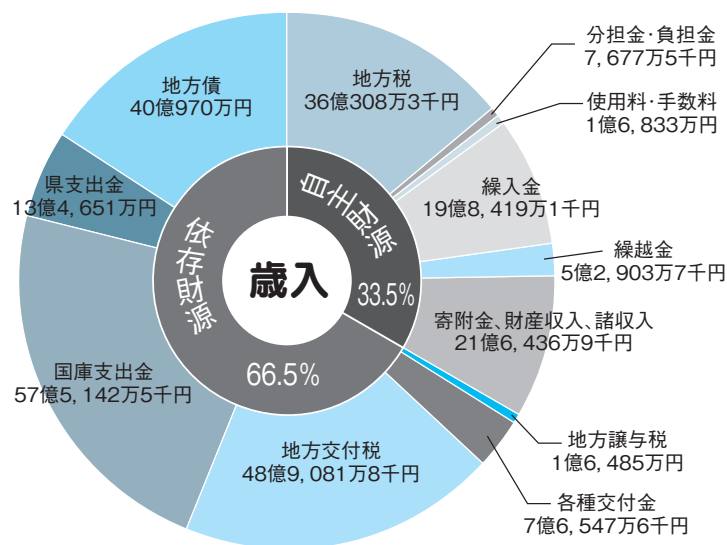
令和2年度 決算の状況

一般会計歳入：254億5,456万4千円 対前年度比：65億5,191万1千円増加

国・県支出金など依存財源が6割

前年度と比較して大幅に増加した要因は、1人10万円の特別定額給付金事業に対する国庫補助金や新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金などによる国庫支出金の大幅な増加や、新庁舎建設などの大型事業の財源となる地方債の増加によるもので、依存財源比率は66.5%（前年度比+3.5ポイント）となりました。

今後も、地方交付税の大幅な伸び等は期待できず、新型コロナウイルス感染症の影響による税収の減少も見込まれ、厳しい財政状況が予想されます。自主財源の確保と、歳入に見合った歳出規模を基本とすることが重要になります。



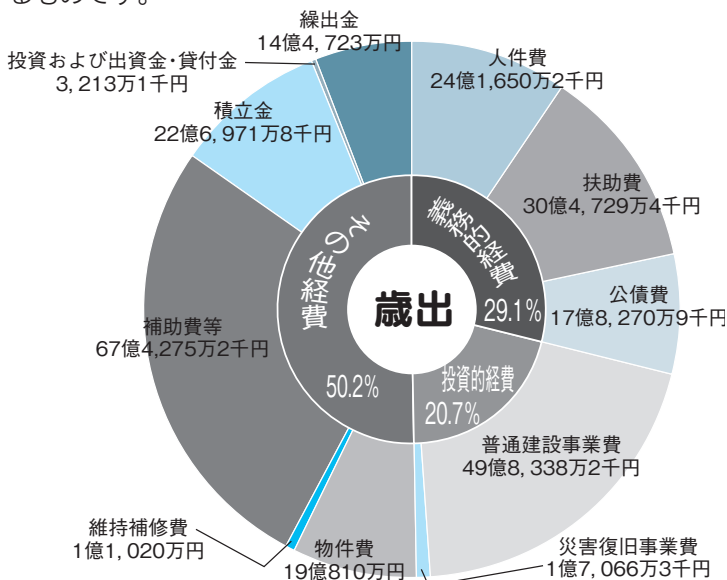
【用語解説】

- 自主財源…市が自主的に調達できる収入
- 依存財源…国、県から交付される財源や地方債のこと
- 地方交付税…全国すべての市町村が等しく行政サービスを提供できるよう国から交付されるもの
- 地方債…市が財政上必要とする資金を外部から借入れるもの
- 国庫・県支出金…特定の事業に対する国・県からの補助金など
- 繰入金…これまで積み立てた基金などから繰り入れる財源

一般会計歳出：249億1,068万1千円 対前年度比：65億3,706万5千円増加

投資的経費、補助費等が大幅に増加

「投資的経費」が対前年度比59.4%の増加、補助費等をはじめとする「その他経費」が対前年度比53.6%増加し、過去最大規模の決算となりました。新庁舎建設事業や脊振交流センター建設事業など大型施設整備事業の最終年度となり、普通建設事業費が前年度比で64.0%増加しました。補助費等の増加は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けた特別定額給付金事業や、市独自のクーポン券事業、事業者応援給付金事業などの施策を展開したことによるものです。

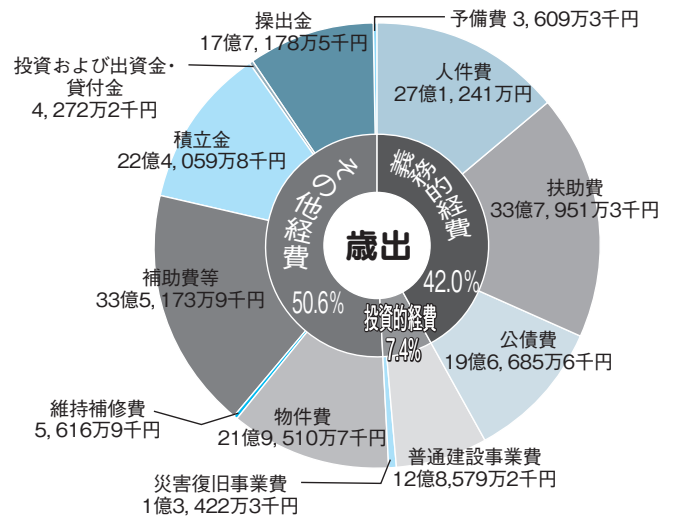
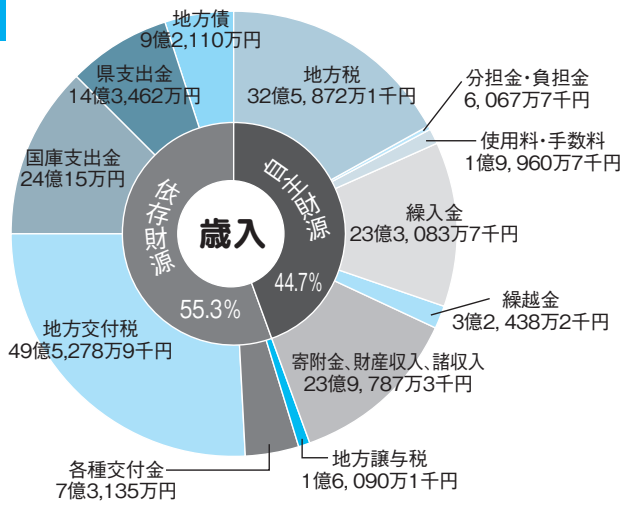


【用語解説】

- 義務的経費…支出が義務づけられ毎年支出しなくてはならない経費
- 投資的経費…普通建設事業費や災害復旧事業費など社会資本の整備にかかる経費
- 扶助費…社会保障制度の一環として生活困窮者や身体障がい者などにその生活を維持するために支出される経費
- 補助費等…市から市民や他の地方公共団体などに、行政上の目的で交付する経費
- 普通建設事業費…道路、橋梁、学校など公共施設の建設事業にかかる経費

令和3年度 予算の状況 (8月定例議会後)

一般会計予算総額：191億7,300万7千円



令和3年度 一般会計の主な事業

【ハード事業】

- ・ 神崎市体育施設改修事業 1億105万円
- ・ 公営住宅建替事業 6,053万円
- ・ 中山間地防災備蓄倉庫整備事業 3,858万円
- ・ 神崎市中央公民館改修事業 3,278万円

【ソフト事業】

- ・ 私立・管外保育所等運営事業 8億9,853万円
- ・ 障害者自立支援給付事業 8億4,013万円
- ・ 企業版ふるさと納税推進事業 210万円

【新型コロナウイルス感染症対策関連事業】

- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種事業 1億1,386万円
- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業 1億4,101万円
- ・ 神崎市事業者応援給付金事業 8,841万円
- ・ キッズパークかんざき整備事業（日の隈公園） 6,707万円
- ・ 子育て世帯への臨時応援給付金等事業 6,147万円
- ・ 神崎市中小企業新事業チャレンジ支援補助金事業 3,000万円
- ・ 神崎市米・大豆次期作支援緊急対策交付金事業 2,696万円
- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種協力機関支援金 760万円

基金（貯金）の状況

(単位：千円)

区分	当初	補正	補正後
一般会計	6,759,930	△35,256	6,724,674
特別会計	227,242	38,819	266,061
合計	6,987,172	3,563	6,990,735

市民一人あたりの基金残高・・・約26万円

地方債（借金）の状況

(単位：千円)

区分	当初	補正	補正後
一般会計	19,635,146	90,400	19,725,546
特別会計	345,046	700	345,746
合計	19,980,192	91,100	20,071,292

市民一人あたりの地方債残高・・・約65万円

※地方債残高には、合併特例事業債や過疎対策事業債など地方交付税で後年度財源措置される分が約7割見込まれ、実質的な市の負担は約3割となります。今後も有効かつ効果的な地方債（市債）を活用した財政運営に努めます。

実質的には市民一人あたり
約18万円 ※

世界アルツハイマー月間 旧古賀銀行ライトアップ

9月15日～30日



9月は「世界アルツハイマー月間」となっており、旧古賀銀行神埼支店をオレンジ色にライトアップしました。オレンジ色に照らされた当施設周辺には、幻想的風景が広がりました。

また、市立図書館では特別展示として認知症に関する本のコーナーを設置、市役所や各交流センターでは認知症を知ってもらうためのパネル展示を行いました。

今回の取り組みをきっかけに認知症へ興味をもっていただき、理解が広まることを期待しています。

民家に3mを超えるサボテン

9月8日

神埼町城原地区の佐藤祐治さん宅の庭に高さ3mを超えるサボテンがあります。

このサボテンは夜に開花し、朝～昼ごろにはしぼんでしまいます。今年の6月上旬に100輪



ほど開花しているのを見つけ、9月上旬にも60輪近く咲きました。

サボテンの成長速度は種類や栽培環境によって変化しますが、このサボテンは植栽から約16～17年が経っており、直近の1カ月半で約20cm以上伸び、高さは3mを超えました。

佐藤さんは「植栽した場所が砂地だったため水がたまらず、成長するのに適していたかもしれない。珍しいものだと思うと嬉しい」と話しました。

明治安田生命保険相互会社から 子育て支援に寄付

9月16日



明治安田生命保険相互会社(中田智章佐賀支社長・写真右)から、子育て支援への活用を目的に寄付金をいただきました。寄付は、地域住民の暮らし・健康を豊かにするための全国的な取り組みである「私の地元応援募金」による地域貢献活動の一環として実施されています。

市長は「コロナ禍という厳しい状況の中、ありがたく子育て支援に活用させていただきます」とお礼を述べました。

長寿をお祝い

9月15日



長寿の祝福と社会に貢献された労をねぎらうため、市長が100歳以上(年度末時点)の高齢者を訪問し、祝金を贈呈しました。

今年度、市内の100歳以上(年度末時点)になられる人は、43人で昨年度より7人増加しています。

新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの対面となりましたが、市長の訪問に笑顔で対応いただきました(写真中央は、新100歳の八谷満子さん(神埼町小淵))。

市内の最高齢者は、中原フクさん(神埼町鶴西・写真右上)で105歳。男性最高齢者は、松永福市さん(千代田町丙太田・写真右下)で101歳となっています。



Facebook アカウント名:くねんニャン
<https://www.facebook.com/kankoukankazi/>



インスタグラム アカウント名:くねんニャン【公式】
<https://www.instagram.com/kunennyan0501/>



神崎中野球部 県予選を制し、全国へ

10月2日~3日



唐津市で開催された第13回全日本少年春季軟式野球大会日本生命トーナメント佐賀県予選大会で、神崎中学校野球部が見事優勝に輝きました。

野球部は令和4年3月、静岡県で行われる全国大会に出場します。なお、神崎中学校野球部の全国大会出場は、約30年ぶりになります。

坂本渉監督は「5年前は、部員数も少なく試合もできない状態だったことを思うと感慨深い。まだ力不足なのでこの冬で、チーム力・個人の力をつけて全国大会でも頑張りたい」と話しました。

交通事故減少へ カーブミラー点検

9月22日



神崎建設業協会が市内でカーブミラーの点検・清掃のボランティアを実施しました。

カーブミラーの点検は、交通事故防止、地域の安全安心に繋がります。

このボランティアは地域貢献活動の一環として年2回、春と秋の交通安全県民運動にあわせて実施され、今回は6班体制で、約350カ所のミラーを点検しました。点検時にはミラーの汚れを落とし、角度の調整を行いました。参加していただいた皆さんありがとうございました。

(株)森博と進出協定締結

10月8日



産業用機械部品の加工、製缶等の事業を手がける(株)森博が神崎町伏部地区に進出することが決まり、進出協定を締結しました。

今回の計画では約3000㎡の土地に工場などを設け、令和3年12月の操業開始を予定されています。

締結式で森口文博代表取締役は「産業機械の部品加工を行ってきたが、ポンプや水門の修繕等の引き合いが増えてきており、今回の事業拡大に至った。将来的には宇宙産業にも進出できれば」と話しました。

神崎町・千代田町予約型乗合タクシー 愛称が決定しました!

10月1日



10月から神崎町・千代田町内を運行している予約型乗合タクシーについて、地域の皆さんに親しみを持って利用していただけるよう、愛称募集を行いました。

応募いただいた中から審査の結果、井手希さん(神崎町協和町・写真左)考案の「NORARU(のらる)」に決定しました。

井手さんは「乗れるよ、の方言の意味を込め、のんびりとした神崎の雰囲気とマッチすると思った。子どもからお年寄りまで幅広く利用してもらえれば」と話しました。

「8月の大雨、土砂災害を受けて」

9月15日、国有林野等所在市町村長有志（県内13市町）による会議が佐賀森林管理署の会議室で開催されました。

会議には、九州森林管理局（計画保全部長、他3人）、佐賀森林管理署（署長、他4人）および佐賀県（林業課技術監、他1人）の参加があり、国からは令和4年度の林野関係予算要求状況の情報提供と「森林・林業基本計画」の策定および「公共建築物等木材利用促進法の改正」の情報、知らされました。

要は、山林の整備と保全を促進させ、林業の発展を図るべく諸施策情報もたらされました。林業の循環（「木を植える ↓ 育てる ↓ 収穫・伐採 ↓ 使う（木製品）」説明の中で、特に、2050年のカーボンニュートラルに適うものだと力説は印象に残るものでした。

また、今年8月11日から19日にかけての大雨による山間部の被害の大きかったことが県内各所から発言、報告がなされ、その災害等の早期復旧

復興が求められました。

私は、国の令和4年度予算要求の災害復旧等事業費100億円以上の要求をしている旨の説明を受けたことから、三谷地区の被害状況を踏まえて次の事を意見として述べさせていただきました。

「治山ダムや砂防ダム等の建設には一定の重圧に耐える建設基準があると思いますが、その既存ダムの基礎部分が、土石流によって根こそぎ破壊され、押し流され、住宅の横に無残な姿で横たわっていました。これでは、住民の安全を守るべきものが、破壊そのものになっていると思いました」と恐怖とともに、



三谷地区土砂災害の状況

安心できる強固な建設を訴えました。

一方、南部の冠水について気付いたことから、9月27日、佐賀県知事に対し、神崎市と吉野ヶ里町、上峰町およびみやき町の1市3町で『緊急特別措置要望』書の提出を行いました。

私の気付きとは、昨年と今年の2カ年連続で田手川左岸（東側）において、これまでになく洪水、冠水が生じたとの意見をいただいたことから、なぜかといった理由を求めたくなつたので、8月14日、冠水している地域の外周を見て回りました。す



千代田町内（田手川左岸）の冠水状況

ると、吉野ヶ里町の最南部地域から上峰町南部地域、さらにはみやき町の南西部地域で広く連続して冠水しています。

みやき町の寒水川、上峰町の井柳川、土地改良による水路の三田川線のそれぞれの下流、末端における筑後川への排水がなされておらず、排水能力を超える洪水による冠水が、標高の低いところ（筑後川沿いの、より下流の低平地域）に流れ込んでいることが分かりました。

神崎市のみで対処するのではなく、関係する地域（他の3町）との連携により、望む流域治水の考えをもつてあたるべきとの思いから、すぐに3町の町長の協力を求め、先の知事要望活動となつたものです。

要望内容の成就には、それぞれの市町の皆さんの理解と協力（田圃ダムや農業用排水路の事前排水など）が力ギとなりますので、より一層のご協力をお願いします。

（10月15日記）

神崎市長 松本 茂幸

市長交際費の公表

（令和3年9月分）

項目	件数	支出額（円）
弔慰	0	0
御祝	3	9,000
激励	0	0
会費	0	0
見舞い	0	0
その他	0	0
計	3	9,000

夜の市長室

どんなことでも構いません。皆さまの声をお聞かせください！

○今後の予定

とき	ところ
11月2日（火）	神崎市役所
12月7日（火）	千代田交流センター

18:00～20:00（1組30分程度）
当日は来庁順です。

◎問い合わせ 総務課 秘書広報係 ☎37-0088

10月の脊振交流センター開催分は、3組3人でした。

※お住まいの地区に関係なくお越しいただけます。

※荒天などの場合は、開催の有無をお問い合わせください。